



春日集落の棚田と安満岳

海から山間部まで連なる春日集落の美しい棚田。後方には平戸島最高峰(530m)で、潜伏キリシタンも聖地として崇めていた安満岳がそびえる。

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を訪ねて

密かな信仰の証

.....

② 春日集落と安満岳

(平戸市)

変わらない風景と今に伝えられた信仰の証

1550年にザビエルが来航し、長崎県で最初にキリスト教が伝わった平戸島。島の北西部、安満岳ふもとの麓にある春日地区もキリシタン集落となり、1561年には宣教師アルメイダが訪れ、「十字架へ続く道は聖体の行列を待ち受けるときのようなありさまであった」と、キリスト教が栄えていた様子を伝えています。

そんな春日集落でキリシタンたちは、禁教後、神社や寺も参拝しながら密かに自分たちの信仰を続けました。彼らは安満岳から流れる水を利用し、幾重にもつながる棚田で生計を立てました。古来から山岳宗教の霊地であった安満岳を、キリシタンたちも聖地として崇あがめました。その一体となった風景は、400年経った現在もほとんど変わっていません。

明治以降も信仰を続ける潜伏キリシタンが多くなりましたが、現在は消滅しています。しかしながら、先祖から譲り受けた信仰の道具(オテンペンシャやロザリオ)は今でも春日集落で受け継がれています。



オテンペンシャ

(平戸市生月町博物館「島の館」蔵)

キリスト教における鞭打ち苦行が起源といわれているが、潜伏キリシタンの間では、正月行事や病気治しの呪具としても用いられた。縄の先端には一文銭などを削って作った十字型などの金属片が付けてある

県では、皆さんからの寄付をもとに構成資産の修復や耐震対策などの事業を行います。ご協力をよろしくお願いします。

長崎県 構成資産へ寄附 検索

問合せ 県の世界遺産登録推進課 ☎095-894-3171 長崎から世界遺産を 検索